

AI・HALL 自主企画
日英現代戯曲交流プロジェクト
ドラマ・リーディング

IRON
by Rona Munro

アイアン

作 — ロナ・マンロー

翻訳 — 谷岡健彦

演出 — 岩崎正裕 (劇団⊕太陽族)

出演 — 内田淳子

奥田ワレタ

山村涼子 (デス電所)

川下大洋 (Piper)

日時 — 2006年 3月4日(土) 7:00pm 開演

5日(日) 2:00pm 開演

会場 — アイホール 伊丹市立演劇ホール

AI・HALL



日英現代戯曲交流プロジェクト

英国スコットランドの首都エディンバラの中心的劇場であるトラヴァース・シアターとアイホールの提携事業「日英現代戯曲交流プロジェクト」は、両国劇作家作品のドラマ・リーディングを契機として、将来的には本格的上演を目指す継続的なプロジェクトです。

三回目となる今年度は、舞台のみならず映画、ドラマなどで幅広く活躍する劇作家ロナ・マンローの『アイアン』をリーディング公演します。また、上演に合わせて、劇作家と演出家によるディスカッションや、劇場と劇作家の関係を考えるシンポジウムを開催します。

これまでのドラマ・リーディング

04年『雌鷄の中のナイフ』(作:デイヴィッド・ハロワー) 演出:鈴江俊郎

05年『ガガーリン・ウェイ』(作:グレゴリー・パーク) 演出:土田英生

トラヴァース・シアター リーディング (04年6月エディンバラ)

『月の岬』(作:松田正隆) 演出:ニコラ・マッカートニー

『うれしい朝を木の下で』(作:鈴江俊郎) 演出:キャサリン・メンデルソン

【解説】

スコットランドの女性劇作家ロナ・マンローの名前は日本ではなじみが薄いかも知れないが、彼女が脚本を担当したケン・ローチ監督の映画『レディバード・レディバード』(1994年)をご覧になった方は多いのではなからうか。児童福祉局から「母親失格」の烙印を押されたために、自分が産んだ子供を次々と福祉局員に取り上げられてしまう女性を主人公にした重たい作品である。

2002年にマンローが発表した戯曲『アイアン』は、ある意味でこの映画の母子の後日譚と言えるかもしれない。物心がつくつかないうちに母親と生き別れになった娘が、自分の「根っこ」となる幼少期の記憶をたどるべく、15年ぶりに母親と再会する物語なのである。しかし、このルーツ探しは、彼女も彼女の母親も意識の底の方に押しとどめておきたかった事件、生き別れの原因となった母親による父親殺しの真相へと二人を直面させることになってゆく。

『レディバード・レディバード』に劣らず、重たい作品ではある。しかし、重量級ならではの有無を言わせぬ力が、このドラマには、ある。(谷岡健彦)



ロナ・マンロー Rona Munro

…1959年、スコットランド北東部のアバディーンに生まれる。エディンバラ大学在学中に自作戯曲を初上演。卒業後は清掃業で生計を立てながら劇作を続け、83年『フーガ』でトラヴァース・シアターでデビュー。その後、数々の演劇賞、戯曲賞を受賞し、舞台のみならず映画、テレビ、ラジオの各分野で活躍している。映画脚本では、英国の社会派監督として知られるケン・ローチの『レディバード・レディバード』をはじめ、ゴールデン・グローブ賞外国語映画賞にノミネートされた『エイミー&ジャガー』(ドイツ)など。自らフェミニスト劇作家を自認し、どん底にあっても強くしたたかな女性を描き続けている。『アイアン』は02年エディンバラ・フェスティバルで上演された翌年、ロンドンのロイヤル・コート・シアターでも上演され高い評価を得た。



岩崎正裕 Masahiro Iwasaki

…1963年三重県鈴鹿市生まれ。劇作家・演出家。劇団垂太陽族主宰。大阪芸術大学入学後、大阪太陽族(のち、1990太陽族)を結成し劇作、演出を担当する。『ここからは遠い国』で第4回OMS戯曲賞大賞を受賞。また大阪市咲くやこの花賞、兵庫県芸術奨励賞、大阪府舞台芸術奨励賞受賞など。劇団以外での劇作、演出も多く、北九州芸術劇場プロデュース『冒険王』(演出)、『ラスト・デイト』(作・演出、出演=戸川純ほか)など。

トラヴァース・シアター TRAVERSE THEATRE

…トラヴァース・シアターは、世界に名だたるエディンバラ・フェスティバルの中心的な会場として位置づけられており、1963年に開場以来、新上演数は600本をゆうに越え、スコットランドを代表する数多くの劇作家を輩出してきた。また、スコットランドをはじめ世界中の劇作家に新作を委嘱し、そのプログラムは批評家や観客から高い評価を得るとともに様々な演劇賞を獲得し、ロンドン・ウェストエンドでの上演や国内外のツアーに発展している。

作 — ロナ・マンロー

翻訳 — 谷岡健彦

演出 — 岩崎正裕 (劇団垂太陽族)

出演 — 内田淳子

奥田ワレタ

山村涼子 (デス電所)

川下大洋 (Piper)

来日メンバー ロナ・マンロー Rona Munro 劇作家

フィリップ・ハワード Philip Howard トラヴァース・シアター芸術監督

キャサリン・メンデルソン Katherine Mendelsohn トラヴァース・シアター文芸マネージャー

日時 — 2006年 3月4日(土) 7:00pm 開演*
5日(日) 2:00pm 開演

開場は開演の30分前

*4日(土)終演後、劇作家と演出家によるポストパフォーマンス・トークを開催します。

会場 — アイホール 伊丹市立演劇ホール



料金 — 1,000円 (全席自由席)

前売・問い合わせ — 072-782-2000 (アイホール)
aihall@juno.ocn.ne.jp

照明・舞台監督 — 西崎浩造 (エスエフシー)

宣伝美術 — 清水俊洋

制作 — 山口英樹 (アイホール) 中山弘美 (エアリアル・ヴォイス)

主催 — 伊丹市・(財)伊丹市文化振興財団

提携 — トラヴァース・シアター

supported by the Scottish Arts Council



企画製作 — アイホール

平成17年度文化庁芸術拠点形成事業



平成17年度地域芸術文化海外交流支援事業

助成 — 財団法人地域創造

Copyright by Rona Munro.

copyright agent: Catherine King, ICM, Oxford House, 76 Oxford Street, London W1D 1BS

関連企画

日英現代戯曲交流プロジェクト～トークセッション 劇作家と劇場の関係

新人劇作家の発掘と新作戯曲上演で定評のあるトラヴァース・シアター。今回、同劇場のスタッフに、劇作家育成や新作戯曲創作のプロセスを伺い、劇場が果たすべき役割などについて語りあいます。

出席者 — 岩崎正裕 (劇作家・演出家 劇団垂太陽族主宰)

芳崎洋子 (劇作家・演出家 糾〜あざない〜 代表)

フィリップ・ハワード (トラヴァース・シアター芸術監督)

キャサリン・メンデルソン (トラヴァース・シアター文芸マネージャー) ほか

日時 — 3月5日(日) 16:30

会場 — アイホール カルチャールーム

参加費 — 無料 事前の予約、申込みは必要ありません。直接会場にお越しください。

AI-HALL